鳥取県地域医療支援センター 広報誌

2019 / Summer vol.03

DOCトリ!

鳥取の地域医療を考えるマガジン　ードクトリ！ー

特集1　わたしのまちのDOCトリ！

江府町国民健康保険江尾診療所 所長
武地 幹夫 先生

特集2　これからの医師にゼッタイ必要な知識と実践！
医学生のための地域医療教育

DOCトリ!

第3号 2019年8月発行 鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS 1

鳥取県内44病院の医師数は足りている？

2019（平成31）年の『医師数調査結果』が出ました

鳥取県では、県内病院において必要としている医師数の現状を把握し今後の施策に生かすため、毎年1月1日現在で「医師数に関する調査」を実施しています。

「必要数」とは、現行の診療体制を基本とした上で、各病院が平成31年4月1日に必要としている医師数です。

「現員数」は平成31年1月1日現在の医師数で、初期臨床研修医を除いています。

鳥取県全体
必要数 1,384.9人
現員数 1,142.8人
不足数 242.1人
充足率 82.5%
県内全域で医師数は不足

東部保健医療圏（14病院）
必要数 435.5人
現員数 329.6人
不足数 105.9人
充足率 75.7%

中部保健医療圏（10病院）
必要数 189.8人
現員数 135.3人
不足数 54.5人
充足率 71.3%

西部保健医療圏（鳥大病院を除く19病院）
必要数 362.1人
現員数 305.3人
不足数 56.8人
充足率 84.3%

鳥大病院
必要数 397.5人
現員数 372.6人
不足数 24.9人
充足率 93.7%

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談やお問い合わせはこちらまで

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること
鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195　FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・相談に関すること
鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviの配信を始めました

ご登録いただいた方には、『DOCトリ!』を毎号お届けします！

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに向けて県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに役立つ情報をメールでお届けします。どなたでもご登録いただけます。

「とっとりドクター Navi」ご登録住所の確認について

とっとりドクター Navi登録者の皆さまにおかれまして、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら、お手数ですが鳥取県地域医療支援センター（本ページ末尾）までご連絡をお願いいたします。なお、ご登録情報の変更については、鳥取県医療政策課ホームページの登録申込フォームでも承っております。

とっとりドクター Navi
登録申込フォーム ▸▸▸
https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm

広報誌名『DOCトリ！』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。
医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行 **鳥取県地域医療支援センター**

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）　TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006
Eメール t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp　ホームページ http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/

□ 制作／有限会社キーワード　〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F　TEL 0857-29-4018

特集1

わたしのまちのDOCトリ!

File No.2

江府町国民健康保険江尾診療所
所長

武地 幹夫（たけち みきお） 先生

地域医療の主役は住民本人
継続して次世代へつなぎたい

専門領域を尋ねると、いたずらっぽく「“江府町”が専門。町のことなら何でも分かるよ」と笑った。
町へ来て23年、きれい事だけではない“本当の地域医療”を追求し続けている医師がここにいる。

町民の〝命の砦〟として

「ゆっくり大きな息をして。オッケー、今日はいい音だね」。明るい声をかけながら聴診器を当てるのは、江尾診療所の所長を務める武地幹夫医師だ。平日の午後はこうして、通院が困難な患者の家を4～5軒回る。雑談を交えつつ体調の変化を聞き出し、顔色や全身の状態を注意深く観察。血圧測定、採血、残薬の確認などを同行の看護師と共にテキパキとこなし、必要があれば薬剤師、ケアマネージャーへ連絡を取る。20～30分かけて丁寧に診察したら、フットワークよく次の家へ。

人口約2900人の江府町は、約45％が65歳以上という少子高齢化・過疎が進む中山間地。鳥取県中西部にそびえる中国地方最高峰・大山の南麓に位置し、冬は深い雪に閉ざされる集落も。そんな山奥での暮らしや老老介護等の理由から、通院できない高齢者は多い。それだけに江尾診療所の存在は大きく、23年の長きにわたり患者を診る武地医師への信頼は絶大だ。

そんな武地医師が地域医療が同居しており、江府町の保健・医療・福祉が連携して住民の命と健康を守る体制が整えられている。武地医師は、時間をかけて町に働きかけ、協力を得ながらこの連携体制をつくり上げてきたのだ。現在福祉保健課の参事を兼務し、現場の専門職を統括する役割も担っている。

この体制下で武地医師が最初に取り組んだのは、脳卒中予防のための「家庭血圧測定」。厳しい自然環境の中での農業、濃い味付け、タンパク質不足、糖質過多な食生活などから脳卒中になる人が多い土地柄だったので、毎日家で血圧を測ることを推進したのだ。すると「草刈りの後、血圧が上がった」「夏と冬で10ぐらい違う」など、生活と血圧の関連性が明確になり、住民の間に血圧を自己管理する意識が高まったという。また、鳥取大学医学部附属病院第一内科の糖尿病グループと共同して、動脈硬化を進行させる軽度の糖尿病患者を拾い上げるシステムをつくり上げ、その患者に対し動脈硬化の予防対策を取った。この2つの取り組みにより、脳卒中になる住民は半減したというからすごい。

保健・医療・福祉の連携が地域医療のカギ

江尾診療所は、JR江尾駅の隣に建つ「江府町総合健康福祉センター」内にある。センターには、町役場の福祉保健課、地域包括支援センター、福祉事務所に出会ったのは、医学生の頃。鳥取大学の医療系サークル「社会医学研究部（現・地域医療研究部）」の活動からだった。農山村に入って健康破壊の実態を聞き取り調査し、健康づくりの取り組みに関わったことで地域医療の大切さに気付き、〝進むべき道〟を見つけたという。

▲医科・歯科を備えた診療所。広く、医療設備が整っている。

「健康教育」も診療所医師の大切な仕事。40ある集落を一つ一つ巡り、集落ごとの暮らしに合った健康づくりを住民と一緒に考えている。▶

未来を見据え次世代育成

武地医師は赴任当初から、地域医療研究部のフィールドワークを受け入れ、後輩たちを支援し、次世代育成に力を注いでいる。「地域医療に光を当てるためには、次に続く人をたくさん育てなくてはいけない」と早々からその重要性を見抜き、「地域の診療所に臨床医として自分がおり、学生が学べるフィールドをそこに準備して呼び寄せる」という理想をずっと実践してきた。

そしてこの春、長年の念願だった地域医療の次世代育成拠点施設がついに開設された。その名も「俣野（またの）ふれ愛学舎（あいがくしゃ）」。廃校になっていた旧俣野小学校を改修、教室に畳を敷いて会議や休憩・宿泊ができるようになり、シャワー室も設置。また、専門的な医療機器はないものの週2回、内科の診察を行う「俣野診療所」も設けられた。毎夏合宿に訪れる地域医療研究部をはじめ、医療を志す若者たちがこの学舎を活用し、学びを深められることを心から喜んでいる。

こうした新たな動きに後押しされ、武地医師は、今日も元気いっぱいに往診の車を走らせる。よく晴れた青空の下、美しい南壁を見せる大山がその車を優しく見守っていた――。

DOCトリ!'s Profile

1959年　兵庫県西脇市生まれ
1984年　鳥取大学医学部医学科 卒業
　　同大学大学院医学系研究科医学専攻 入学
1988年　医学博士取得
1989年　松江赤十字病院 内科
1990年　財団法人白鳩病院 内科
1995年　社会医療法人社団高野会 大腸肛門病センター高野病院 内科
1997年　江府町国民健康保険江尾診療所 所長
2002年　江府町福祉保健課 課長補佐（兼務）
2005年　鳥取大学医学部 臨床教授
2011年　江府町福祉保健課 参事（兼務）

【専　門】プライマリ・ケア／消化器病／消化器内視鏡
【資格等】日本内科学会 認定医／日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医／日本消化器がん検診学会 専門医／日本消化器病学会 専門医／日本消化器内視鏡学会 専門医

わたしの鳥取LIFE!

城主を偲ぶ歴史ある夏祭り

戦国時代に栄えた江美城の城主を偲んで、ここでは毎年8月17日に「江尾十七夜」というお祭りが開かれます。約500年続く伝統的な夏祭りで、「江美城太鼓」「こだいぢ踊り」などが披露され、とてもにぎやか。夜になると山に「十七夜」の火文字が浮かび上がり、幻想的な雰囲気に包まれるんですよ。

特集2

これからの医師にゼッタイ必要な知識と実践！

医学生のための地域医療教育

県内の医療、これからどうなる？

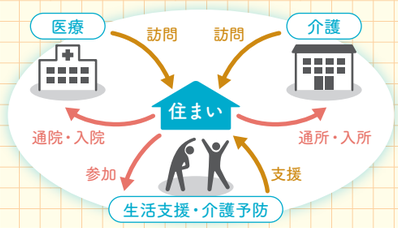
鳥取県では、65歳以上の高齢者人口が総人口の3割を超えています。さらに2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、75歳以上人口が増加。複数疾患、認知症、介護、経済問題、看取りなど高齢者の健康問題が顕在化し、今後ますます自宅療養の患者数が増えると予想されています。

「地域包括ケアシステム」とは

こうした中、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム（図1）」の構築が進められています。

在宅医療では、移動や着替え、食事、排泄など生活の問題が切実です。また、病院や医師、看護師、薬剤師、歯科医師、栄養士といった人たちとの連携はもちろん、地域コミュニティーでの支え合いも必要になってきます。医療の状況や健康問題には地域ごとに違いがあり、その特性に応じたシステムづくりにおいて医師の果たす役割は大きく、医学生のうちから地域医療への理解を深める必要があります。

【図1】地域包括ケアシステム



▲ これからの地域医療を支える仕組みづくりが急がれる。

鳥大の「地域医療教育」

鳥取大学医学部医学科の医学教育は、1・2年生の「基礎教養教育」、3・4年生の「前臨床教育」、5・6年生の「臨床教育」という3段階で行われています。

地域医療教育もこのステップに合わせて展開されており、医療制度や地域包括ケア等を学ぶ「地域医療の基礎知識」、症候学や臨床推論、地域医療体験等を行う「地域医療に必要な臨床知識」、教育サテライト（※1）での診療実践を行う「地域医療の実践」といった形で、地域医療を担う医師に必要な知識・技術の習得とスキルアップを図っています（図2）。

地域医療は生物医学的な面と社会医学的な面の両方を含んでいるので、各段階でそれらがバランスよく学べるよう、地域医療や医療者の役割を自分の頭で考えさせるようなグループワークやポートフォリオ（※2）を活用しながら教育を進めています。また2019年からは、「臨床実習2」において6年生全員が、3カ月の実習期間のうち1カ月は必ず大学外の医療施設で実習することが義務付けられました。より地域医療の現場に近い場所で実習に取り組んでいます。

地域医療教育は今や医学教育のコアカリキュラムに位置付けられており、医学生全員が学ぶべき分野となっています。

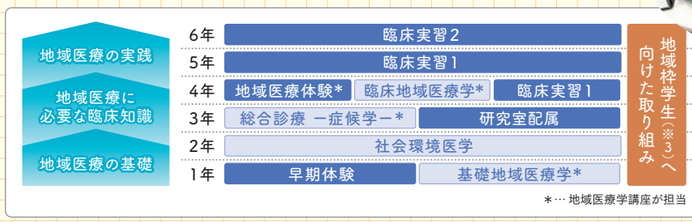
※1 鳥取大学地域医療総合教育研修センター（日野病院内）・鳥取大学家庭医療教育ステーション（大山診療所内）

※2 レポートや議論など自らの学習成果を整理・保存し、自分の成長過程を振り返る仕組み

※3 医学部医学科一般入試・推薦入試の地域枠で入学している学生

【図2】鳥取大学の地域医療教育 ～2018年度から実施の新カリキュラム～

■：鳥取大学地域医療総合教育研修センター（日野病院内）での実習を含む



地域の医師不足・高齢化が進む現代では、地域医療の重要性は高まるばかり。そこで今号では、県内の現状を捉えつつ、医学生への地域医療教育についてご紹介します！

鳥大医学科の地域医療教育をご紹介！

地域医療教育の到達目標

1. 地域住民の健康状態には、家族、地域社会、文化などの社会環境が関与していることを理解できる。
2. 地域医療に必要なプライマリ・ケアの考え方と技能を習得し、基礎的事項を実践できる。
3. 地域や地域で暮らす人を尊重し、コミュニティーと連携して地域医療の向上に貢献できる。

こんな授業・実習があります！

●基礎地域医療学

自分自身の医療体験（患者or家族）を参照しながら、地域医療の現場で使われる理論と結び付けて理解を図り、地域医療システムやキャリアビジョンについて考えます。

●総合診療 ―症候学―

患者の症状について適切な問診と身体診察から臨床推論を行うことは、医師にとって最も基本的な能力です。発熱や腹痛等、具体的なケースを挙げながら学んでいきます。

●臨床地域医療学

緩和ケアや看取り、家族や社会背景が複雑な症例など、臨床現場で問われる複雑で曖昧な問題についてどのように意思決定を勧めるべきか、事例を用いて考えます。

●地域医療体験

大学病院以外の医療施設を計4回訪問。クリニックから総合病院まで、地域医療現場で働いている医療者の役割を多面的に捉え、その社会的な役割を考えていきます。

●臨床実習1

5年生必修の臨床実習。教育サテライト（※1）での地域医療実習（1週間）も組み込まれています。指導医監督の下、学生は1人で外来患者を診察し、診断・説明を行います。

●臨床実習2

3つの診療科を選択し、各1カ月実習を行います。地域医療の実習では病棟患者を受け持ち、初診外来や救急対応、地域の健康講座も担当。学生はこの1カ月で大きく成長します。

【臨床実習とは】「Student Doctor」として実際に患者を担当し、診療に関わる実践の場です。医師と同じように白衣を着、患者に向き合う中で臨床スキルを身に付けていくものです。

「地域枠」学生（※3）の課外学習活動例

英国家庭医療研修

2017年より英国・ケンブリッジ大学を訪問。医学部の講義に参加したり、クリニックを訪問して家庭医制度のシステムを動かしている現場を体験します。

くろさか春夏秋冬セミナー

日野町黒坂地区の活動に年間を通じて参加。春は地区視診、夏は子どもたちと川下り、秋は公民館祭り、冬はとんどさんと、地域の暮らしを体験します。

鳥取県の農業体験

二十世紀梨の収穫・選果作業を行ったり、大山町香取の酪農を視察するなど、地元の農業と健康問題の関係について体験しながら理解を深めます。

地域医療を目指す皆さんへ

地域医療学講座 教授
谷口 晋一（たにぐち しんいち） 先生

今後75歳以上人口が全国的に増加し、超高齢化社会がさらに進みます。医師は地域のニーズと地域包括ケアを理解し、生活基盤から看取りまで広い視野で対応できる能力が求められています。この役割を期待されているのは、かかりつけ医や総合診療専門医です。これらの在宅医療を担う医師は、病院の医師や多職種と緊密な連携が必要になると思います。また、地域医療実習や臨床実習におけるプライマリ・ケアの経験がコアカリキュラムに明記され、医学教育も変革が求められています。

地域医療教育の目的は、「地域の医療ニーズに対応し、地域に貢献する良医の育成」です。学生が本当の意味で地域医療に接するのは、卒業して医師として働き始めてからです。今後は初期臨床研修においても外来診療やプライマリ・ケアの実践が求められます。患者にどう向き合うのか、悩む場面も多いと思います。そのとき指導者の適切なアドバイスが必要になるでしょう。

地域医療を志向する人や地域包括ケアに興味のある人には、専門研修の一つとして総合診療専門医のプログラムを準備しています。2019年度から、既に2名の専攻医が研修を始めています。まだ小さな一歩を踏み出したばかりですが、地域の医療ニーズに対応して自分の役割を考えることのできる医師を1人でも多く育てることが、私たちの使命だと考えています。

◀ 地域医療に関する教育を中心的にサポートしている地域医療学講座のスタッフ

臨床研修病院

鳥取県で医師になろう！

臨床医に義務付けられている2年間の臨床研修。鳥取県内では8つの指定病院で研修を行っています。
その病院を毎号2つずつピックアップ！自分に合った病院を探す参考にしてください。

西部エリア	中部エリア	東部エリア
鳥取大学医学部附属病院	鳥取県立厚生病院	鳥取県立中央病院
山陰労災病院		鳥取赤十字病院
米子医療センター		鳥取市立病院
鳥取県内に全8病院！		鳥取生協病院

東部エリア

鳥取県立中央病院

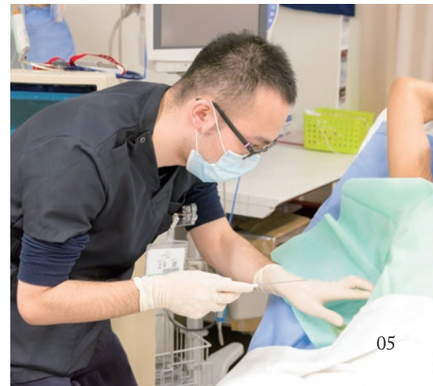
専門医療からプライマリ・ケアまで、
良質な医療で県民の生命と健康を守ります。

当院は高度急性期医療の総合病院で、鳥取県東部医療圏（二次医療圏）の基幹病院です。救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携病院、地域医療支援病院の指定を受けているほか、県の医療政策に従ってへき地医療支援病院や二次被ばく医療機関にもなっています。このため、二次、三次救急を主体とした救急患者の受け入れや、地域連携により紹介された一般疾患から特殊疾患に至るまで様々な症例を経験できます。

１９８０（昭和55）年の臨床研修病院への指定以降、当院で研修を修了した医師が県内の様々なところで活躍し、鳥取県の医療に貢献しています。

病院の特徴

- 高度急性期医療、周産期医療、がん診療、災害医療などの拠点病院としての機能を果たすため、２０１８年12月に新築移転。
- 栄養サポート、緩和医療、感染対策といった様々な医療チームがあり、「チーム医療」を実践するとともに、若い医療者の育成に注力している。
- 山陰地方唯一のＤＰＣⅡ群病院として、質の高い安心・安全な医療を提供している。



研修プログラムの特徴

- 多科ローテートの臨床研修病院として約40年の歴史があり、文化として根付いている。
- 一次救急から三次救急までの豊富な症例が集まるため、たくさんの経験を積むことができる。
- すべての指導医が指導医講習会を受講し、研修医に合わせた指導を行っている。
- 将来の進路希望に合わせて自分でプログラムを組むことができ、変更にも柔軟に対応している。
- 院内外の様々な研修・講習会への参加支援を行っている。
- たくさんの同期がいて、お互いに切磋琢磨しながら研修を行うことができる。

研修スケジュール例

年次＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	オリエンテーション	内科 16週			神経内科 4週	心臓内科 4週	救急部門※（救急科・麻酔科） 12週		外科 4週	産婦人科 4週	小児科 4週	選択科目 4週
2年次	精神科 4週	地域医療 4週	選択科目　44週 （2年次の研修ローテートは希望する診療科が選択できるように、研修医自身で調整。 また、2年次には連携病院での研修も選択可能。）									

※救急部門は土日夜間の救急外来日当直4週相当分を含め合計12週とする。

指導医に聞きました！

自分のスキルを存分に高められる学びがいのある病院です。

糖尿病・内分泌・代謝内科部長
村尾（むらお） 和良（かずよし） 先生
糖尿病・内分泌・代謝

当院には、40年に及ぶ長い「多科ローテート研修」の歴史があり、その歴史に裏打ちされた文化が醸成されています。

毎年たくさんの研修医が集まり、充実した研修を行っていますが、その後も当院での勤務を希望する人が多いのは、病院の持つ雰囲気がいいからだと思っています。

山陰で初めて卒後臨床研修評価機構の認定を受け、慢心することなく、より良い研修環境を整えようとしているのは、研修医の笑顔が見たいからです。苦労が報われ、笑顔で終われる研修が待っています。

初期研修医に聞きました！

たくさんの手技が学べる環境の下、同期と共に研鑽を重ねる毎日。

研修医1年目
三鴨（みかも） 豪志（つよし） 先生
愛媛大学出身

初期研修が始まって2カ月がたち、少しずつ医師としての仕事に落ち着いて取り組めるようになってきました。

当院での初期研修でまず感じたのは、経験しなければならない手技が多いことです。当院では指導医の先生方が積極的に指導を行ってくださいます。また、研修医同士での情報交換も盛んで、1年目、2年目合わせて20名ほどが、研修医室でお互いに助け合いながら切磋琢磨しています。

まだまだ未熟な点ばかりですが、この環境を生かし、精いっぱい研修に取り組もうと思います。

病院データ

病床数	518床（うち一般504床）
医師数	122名
指導医数	71名
研修医数	1年次：13名、2年次：8名
入院患者数	1日平均397名（H31.4）
外来患者数	1日平均744名（H31.4）

お問い合わせ／応募連絡先

担当部署　鳥取県立中央病院 総務課
所在地　〒680-0901 鳥取県鳥取市江津730
TEL・FAX　TEL.0857-26-2271　FAX.0857-29-3227
E-mail　chuoubyouin@pref.tottori.lg.jp
WEBサイト　https://www.pref.tottori.lg.jp/chuoubyouin/

西部エリア

米子医療センター

「あたたかく、強く、優しい」を追求する国立病院機構の病院です。

当院は鳥取県西部に位置し、日野川の向こうに秀峰大山を望み、北には紺碧の日本海が広がるという豊かな自然美の中で研修できる病院です。

研修スタイルは、スペシャリスト型ではなく「ジェネラリスト型」です。プライマリ・ケアの基本である内科、外科、小児科を中心として、研修医の先生が効率的にレベルアップできるよう、2年間で心・技・体ともに優れた臨床医を育成します。

研修医の先生方が卒後数年の間に「有能な臨床医」、すなわち「患者さんのあらゆるニーズに迅速、かつ適切に応えられる医師」になれるようお手伝いします。

病院の特徴

- 地域の医療・介護と連携し、支援を行う地域医療支援病院。
- 国立病院学会や国立病院機構主催の各種研修に参加することができ、全国の研修医と交流可能。
- 非血縁者間の骨髄移植、および腎臓移植ができる施設。また、地域がん診療連携拠点病院にも指定されている。
- 内科系、外科系の各診療科のほか、整形外科、泌尿器科、放射線科等、豊富な診療科で研修可能。

病院データ

病床数	270床（うち一般250床）
医師数	37名
指導医数	32名
研修医数	1年次：3名、2年次：3名
入院患者数	1日平均212名（H30年度実績）
外来患者数	1日平均382名（H30年度実績）

お問い合わせ／応募連絡先

担当部署	米子医療センター 管理課 庶務班長
所在地	〒683-0006 鳥取県米子市車尾4-17-1
TEL・FAX	TEL.0859-33-7111　FAX.0859-34-1580
E-mail	hamada.mitsuya.ju@mail.hosp.go.jp
WEBサイト	https://yonago-mc.hosp.go.jp/

研修プログラムの特徴

- 日常診療で頻繁に遭遇する病気・病態や救急症例を担当医として自ら体験し、高度な手技を体験することができる。
- 良好な医師・患者・家族関係を築くことができるよう、医師としての基本的なマナーを身に付ける。
- 一般外来は既存の総合外来にて、初診患者に対して患者中心面接（patient-centered interview）を行い、臨床推論を用いて鑑別診断、検査計画を立て、その後指導医による患者診察を見学する。診察終了後、振り返りを行うことで診察の極意を身に付ける。
- 産婦人科、精神科、地域医療に関しては、協力施設にて修得する。

研修スケジュール例

年次＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	救急基礎研修 4週	内科24週（並行研修として一般外来4週を含む）＋ 並行研修として救急部門 6週								小児科 6週 ＋ 救急部門2週		外科 4週 ＋ 救急部門2週
2年次	地域医療 4週	産科婦人科 4週	精神科 4週	自由選択 32週								

※救急医療（救急基礎研修4週含む）は2年間を通じて12週以上。

指導医に聞きました！

研修医それぞれに寄り添った指導で強く優しい医師を育成します。

臨床研修室長（循環器内科）
福木（ふくき） 昌治（まさはる） 先生
虚血性心疾患など循環器疾患一般

当院は、緩和ケア病床20床を含む270床を有する県西部地区の基幹病院です。急性期医療、二次救急医療など地域の中核病院としての必要機能を有した上で、がん治療・移植医療に特化した医療を提供しています。

臨床研修病院としては小規模ですが、それがかえって強みとなっています。各診療科の垣根が低く、在籍科にこだわらず種々の症例・疾患に触れることが可能で、当院で研修を受けた研修医に評価されています。何よりアットホームな雰囲気の中で充実した研修ができると信じています。

初期研修医に聞きました！

診療科を越えて質問・相談ができ、能力を伸ばしやすい環境です。

研修医1年目
小林（こばやし） 眞子（まこ） 先生
鳥取大学出身

私が米子医療センターを研修先に選んだ理由は、優しくあたたかい病院の雰囲気に魅力を感じたからです。

鳥取県西部地区の基幹病院として多くの症例を経験することができ、診療科の垣根を越えて上級医の先生にも質問や相談がしやすく、ローテートする診療科に限らず学ぶ機会があります。また、国立病院機構の一つとして全国の勉強会に参加しスキルアップすることができます。

指導熱心で経験豊富な先生方と職員の皆さまに支えられ、恵まれた研修ができる当院へ、ぜひ見学に来てください。

鳥取県で初期臨床研修をしませんか

鳥取県は県と県内臨床研修病院が協議会を立ち上げ、研修医のための様々な取り組みを行っています。

主な事業
- 臨床研修病院見学旅費の助成
- 研修医交流会の開催
- 臨床研修セミナーの開催

詳しくはWEBで！

お問い合わせ
鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課 医療人材確保室
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1-220　TEL.0857-26-7195　FAX.0857-21-3048　E-mail ishikakuho@pref.tottori.lg.jp

鳥取県　臨床研修

若手医師REPORT

DOCトリ！のタマゴ

「これから“DOCトリ！”になるぞ」と頑張っている先輩たちに、これまでの歩みや現在の様子を聞いちゃいました！

内科での経験を糧に、目指すは整形外科医

鳥取県立厚生病院
内科

竹安（たけやす）　航（わたる）先生

1991年　鳥取県倉吉市生まれ
2017年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2017年　鳥取県立中央病院
　　初期臨床研修医
2019年　鳥取県立厚生病院 内科

私は、特別養成枠で鳥取大学に入学しました。卒後9年間の義務年限中の診療科は、内科を含む6診療科から専攻するよう定められていますが、私が最も興味を持ったのは、それ以外の整形外科でした。整形外科は、疾患とその治療の結果が患者さんの身体の動きや画像として実際に「目に見える」ということ、そしてダイナミックな手術が自分の性格に合っていると感じたからです。現在は内科医として勤務していますが、将来的には整形外科医となることを目指し、両科の研修を並行して行っています。

地域に出る間は患者さんに内科医としての診療を求められるため、その期待に応えられるよう努力していく所存です。整形外科医としては若干出遅れますが、内科医として従事しているこの経験は将来必ず大きな糧となるはずだと思い、日々の診療に向き合っています。

わたしの鳥取LIFE!

趣味の一眼レフで写し撮る故郷の美

同期に誘われ、研修医時代に一眼レフカメラを始めました。絞りやシャッター速度を調整して“自分だけの写真”を創作する面白さがあります。今春、倉吉市の桜の名所「打吹公園」の夜桜を撮りました。幼少期の遊び場であった公園の美しい一面を一枚。

努力を積み重ね、「頼れる医師」になりたい

鳥取大学医学部附属病院
初期臨床研修2年目

よしだ
吉田 つばさ 先生

1994年　鳥取県米子市生まれ
2018年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2018年　鳥取県立中央病院
　　初期臨床研修医1年目
2019年　鳥取大学医学部附属病院
　　初期臨床研修医2年目

「何でも相談できる町のお医者さんになりたい」。医師を志してから、漠然とそう考えていました。その後医学部に入り、様々な医療問題を学び、サークル活動や授業で地域の生の声を聴き、今は「人生に寄り添える家庭医になりたい」と考えるようになりました。今のところ、初志貫徹です。

地域で医療を行うには急性期病院での診療も知るべきだと思い、1年目を鳥取県立中央病院、2年目を大学病院で研修できるプログラムを選択し、内科だけでなく、リハビリテーション科、放射線科など様々な診療科で満遍なく研修しています。

勉強しなければならないことが多く必死ですが、私の夢を応援してくださる先生も多く、充実した日々を過ごしています。「何でも相談できるお医者さん」になれるよう、一つずつ経験を積み重ねていけたらと思います。

わたしの鳥取LIFE!

真夏の夜を彩る華麗な傘踊りを披露

昨年の夏、鳥取県東部の伝統的なお祭りである「鳥取しゃんしゃん祭」に県立中央病院連として参加しました。幼い頃から地元でジャズダンスをしており、踊るのが大好きなんです！ 舞台芸術医学をライフワークの一つにできたらいいな、なんて考えたりしています。

1度は行くべし！

TOTTORI★イチオシ名鑑

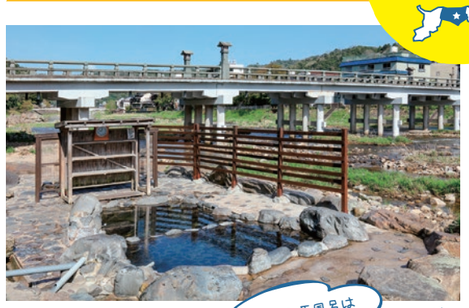
Enjoy Tottori life!

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介します。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ！

遊 @Middle

浸かって、吸って、飲んでよし カラダが喜ぶラドンの湯

三朝温泉（みささ）



清流・三徳川のほとりに佇む三朝温泉は、情緒あふれる温泉場です。高濃度のラドン※を含む世界屈指の泉質として知られており、温泉に浸かるのはもちろん、気化したラドンを吸ったり飲泉を飲むことでも新陳代謝が良くなり、免疫力や自然治癒力が高まるのだとか。3つの公衆浴場のほか、16軒の温泉旅館で日帰り入浴が可能なので、湯めぐり三昧ですよ♪

また、温泉街には足湯や飲泉場が点在。昔懐かしい射的やスマートボールなどで遊べる娯楽場、思わず童心に返る駄菓子屋さんも。湯上がり後は、昭和レトロな雰囲気に浸りながらしっとりと散策を楽しんで。

※ラドン…ラジウムが分解されて生じる気体で、微量の放射線を持つ。

住 東伯郡三朝町三朝
☎ 0858-43-0435（三朝温泉観光協会）
P 観光駐車場あり（無料）
🚗 JR倉吉駅から車で約20分、
北条湯原道倉吉ICから車で約25分

東 @Eastern

砂丘歩きの疲れも吹っ飛ぶ!? サッパリ味の梨ジェラート

さんこうえん砂丘店

▲梨ジェラート シングル 300円

「鳥取砂丘」がある鳥取市福部町周辺は、実は梨の名産地。砂丘の目の前に店舗を構えるさんこうえん砂丘店では、すぐ近くの観光農園で自家栽培している梨を使った「梨ジェラート」を食べることができます。

一口食べると、梨独特の爽やかな甘さがパーッと広がります。とてもみずみずしく、まろやかで立体感のある味わいです。それは、二十世紀梨をメインに数種類の梨をブレンドしているから。

鳥取砂丘を頑張って歩いた後は、この冷たくて美味しい“砂丘デザート”でクールダウンしましょう！

住 鳥取市福部町湯山2164-807
☎ 0857-30-1174
営 平日10：00〜17：00
　土日10：00〜18：00
休 不定休 ※8〜9月は無休
P 近隣の観光駐車場を利用
🚗 JR鳥取駅から車で約20分、
山陰近畿道福部ICから車で約5分